

福島県PTA連合会会報
第30号_H02. 11. 20

大会主題

—21世紀をになう心身ともにたくましく
個性豊かな子どもの育成をめざすPTA活動—

ふくしま

福島県PTA連合会
 岩手県PTA連合会
 青森県PTA連合会
 黒田少年PTA連合会
 市黒田少年PTA連合会
 福島県PTA連合会
 電話0245(45)5982
 印刷 井和印刷所
 電話57-1071

実践成果を持ち寄り

熱心に研究協議

第39回福島県PTA研究大会白河大会終わる

「二十一世紀をになう心身ともにたくましく、個性豊かな子どもの育成をめざすPTA活動」を大会の主題に掲げ、県下二百余名の会員参加のもと、東北の表玄関、文化の香り高いまち白河市において第三十九回福島県PTA研究大会白河大会が、八月三十一日・九月一日の両日にわたって開催された。

第一日目は、櫻井和朋県PTA連合会長より、「子供達の幸福の追求という原点に常に立ちかえり、未来を見通しながら今日の課題を追求し、その解決をめざそう。」

とのあいさつがあり、続いて長年にわたるPTAへの功労者、団体に対して、感謝状・表彰状の贈呈が行われた。

午後は会場移動後七つの分科会に分かれて研究協議が行われた。

二日目は全体会の中で各分科会の協議内容が報告され、そのあと県教育庁社会教育課主幹の七島征氏より全体指導をいただいた。



輝く受賞者

記念講演は、東京都多摩動物公園長の増井光子氏が「動物たちのくらしから」と題して豊富な経験をもとに、興味の多い話をされた。(講演内容は、四ページに掲載)

最後に次年度開催地の会津若松市PTA連合会長、平山恒雄氏へ県連P旗を引き継がれ、二日間の幕を閉じた。

平成二年度県連P会長より感謝状・表彰状を受賞された方々のご芳名

△感謝状▽
 「県連P前会長副会長」

- 前会長 齋藤 元
 前副会長 山口豪志 木藤忠行
 馬目佳彦 飛田昭栄
 「県連P前監事」
 大塚 守
 「県連P前理事」
 中村幸吉 宗像源一
 藤田祐太郎 阿部進翼
 小野 哲 堀川巨夫
 井上礼子
 「県連P前事務局員」
 永井七郎 渡辺 博
 加藤哲夫
 「各地区前事務局長」
 国分道男 村越 傳
 鈴木明男 仁科武芳
 寺川 智 白岩 勇
 佐藤藤雄 古川保夫
 野中儀一 阿部郁夫
 蛭田 満
 △表彰状▽
 福島市福島第二小PTA
 福島第三小PTA
 同 清明小PTA
 同 飯坂小PTA
 同 平田小PTA
 同 福島第二中PTA
 同 梁川町立富野小PTA
 同 桑折町半田醸芳小PTA
 同 月館町立月館中PTA
 同 二本松市立原瀬小PTA
 同 平石小PTA
 同 鈴石小PTA
 同 本宮町立岩根小PTA
 同 東和町立南戸沢小PTA
 白沢村立糠沢小PTA
 郡山市立芳賀小PTA
 同 上伊豆島小PTA
 同 二瀬中PTA
 同 桃見台小PTA
 同 河内小PTA
 同 富田中PTA
 同 長沼町立長沼中PTA
 同 玉川村立川辺小PTA
 同 都路村立大久保小PTA
 同 白河市立小田川小PTA
 同 白河中央中PTA
 同 矢吹町立三神小PTA
 同 大信村立大屋小PTA
 同 会津若松市立原小PTA
 同 共和小PTA
 同 第一中PTA
 同 第四中PTA
 同 磐梯町磐梯第一小PTA
 同 柳津町立西山小PTA
 同 会津高田町高田小PTA
 同 塩川町立堂島小PTA
 同 喜多方市立関柴小PTA
 同 南郷村立南郷中PTA
 同 いわき市立植田小PTA
 同 錦中PTA
 同 豊間小PTA
 同 内郷一中PTA
 同 大野中PTA
 同 鹿島小PTA
 同 浪江町立大堀小PTA
 同 葛尾村立葛尾中PTA
 同 小高町立小高中PTA
 同 原町市立石神中PTA
 ほか個人九十七名

第一分科会

「会員の参加意識を高める組織・運営を考えよう。」

提言では、川俣南小から、会員が参加しやすい

曜日のアンケート調査結果から、土日の午後一時からという声が多く、実現に向けて努力している

ということ。浅川中から共働きの会員が多くなっ

てきているため、行事を精選し、会員の関心のある

行事を計画・実践しているということ。若宮小から、参加し

やすい行事の工夫として、各専門部の行事の中に、親子で

行うことができるもの

を多くし好評を得ている

などの発表があった。

協議では、協議を行う

場合、終始時刻を明確

にし、その時刻を厳守

することや、協議におい

ては学校側



から現状説明を受け学校理解に努めているなどの意見があった。

ご指導の白岩・星両先生からは、

○行事を行う場合「なぜ・なんのために」行うのかという目的意識を明確にすること。

○行事の精選を行い、内容及び運営等を検討し、より充実させること。

○従業者がPTA行事に気軽に参加できるようにするため、日頃から連絡を密にし、協力が得られるようにすること。

等のご指導があった。

第二分科会

「変化の激しい時代に対応できる教養を身につけよう。」

提言一、小規模校の鮫川村富田小では、自己教

育力の育成をめざし、親子旅行・体験学習・伝統的な遊びなどを通して、

児童の理解に努めている。提言二、若松五中では

PTA活動を活性化するために、教育講演会・研修

視察・読書の啓蒙に取り組んでいるが、会員の

参加が少ないという難みをかかえている。

提言三、広野小では、マンネリ化した講演会を

やめ、家庭教育学級に力を入れ親子体操を実施

していることや、多目的ホールのある学校の視察に

重点をおいている。質問の中では、教育講

演会の講師の選定と謝礼。会員の教養を深める工夫

などがあり、この三点を協議題として話し合った。

各地区から、活発な意見が出され、マンネリ化

したものから、どう脱却し新しい時代に対応でき



る教養をどう身につけるか、真剣に話し合われた。最後にご指導のお二人

の先生から、

○講師は高年齢人材名簿を活用してほしいこと。

○生涯教育としてのPTAのかかわりを知ること。

○教養を高めるPTA活動について話し合うこと。

○PTAは学校教育を理解することから始まる。

○PTAの目的は何か、原点にもどって考える。

○社会構造の変化に伴い、PTA活動も変化していく。

などあげられました。

第三分科会

「家庭の教育力を高め、親からの働きかけをすめよう。」

最初に、白岩小より、

「親子の絆を強めるためにはどうしたらよいか。」

忙しさをわしさが子どもと親をバラバラにして

いるのではないか。「お父さんは透明人間」と父

親不在が反省されているなかで「親としてできる

ことは何か。」ということ

で、実践例が紹介された。大久保小からは、「進

んで学習する子どもを育てるには」ということで

親自身の「聞き上手」、「ほめ上手」「声かけ上

手」になることが力説され、都会と農村の子ども

の交流が、より社会性を高めるために役立ったこ

とが報告された。

また、南郷中からは、「子どもの豊かな心を育

てるために」ということで、「豊かな心を持った子どもとは」という子ども像が出され、その実現のために実践されたこと



（作業）などが提言された。研究協議においては、これらの提言に対して、

親の立場、教師の立場などから十数名の方々より

質問や意見が出され、大変活発であった。

最後に、秋山・坂本両先生より、ご指導をいただいた。

○親子共働きの行事を持つ工夫をすること。

○干渉をつつしめ、認め励ますようにすること。

○子どもの手本となるような信頼される親になっ

てほしいこと。など。

白河大会

第四分科会

「心豊かな子どもを育てよう。」

「心豊かな子どもを育てよう。」

成果をあげている。猪苗代小からは、多様な活動を通して、児童が楽しくスポーツに溶けこめるように工夫している。関柴小からは、補導部を中心に関係機関と連携を図りながら、健康安全に対する施設設備を整備したり意識を高めたりしている、それぞれの実践例が発表された。



「心豊かな子どもを育てよう。」
「健全な子どもを育てよう。」
「心身に障害をもつ子どもの教育をPTA活動の中で積極的に取り上げよう。」

第五分科会

「健全な子どもを育てよう。」

「健全な子どもを育てよう。」

「健全な子どもを育てよう。」



「健全な子どもを育てよう。」

第六分科会

「心身に障害をもつ子どもの教育をPTA活動の中で積極的に取り上げよう。」

「心身に障害をもつ子どもの教育をPTA活動の中で積極的に取り上げよう。」

「心身に障害をもつ子どもの教育をPTA活動の中で積極的に取り上げよう。」



「心身に障害をもつ子どもの教育をPTA活動の中で積極的に取り上げよう。」

特設分科会

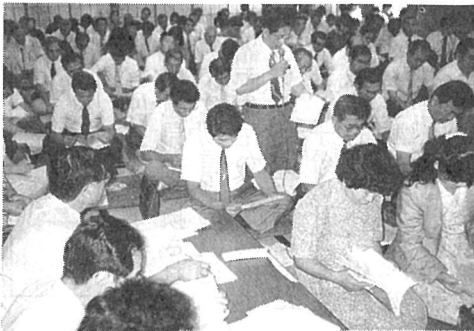
「家庭のあり方と親の役割を考え、学校との連携を深めよう。」

提言では、福島市立信

陵中学校PTAから親は子どもの進路について、親の立場や学校の進路指導計画の理解に努めながら親子の対話が大切であるという発表があった。

又、郡山市立行健中学校PTAからは子どもが目指す進路について親と教師のコミュニケーションが大切であるという報告があった。

協議会では、質問や意見がなかったので司会者の配慮で県内各地区の進路状況の実態や実情について校長先生方からご意見を伺うことになりました。県北地区からはPTAの会員の方々に自分子どもの頃の進路にかかわる事例を出していただき、進路指導の資料として活用しているというユニークな意見が出された。又、各地区ともPTAの進路対策委員会、校長会等で情報交換を行って成果を上げている例。



記念講演

『動物たちのくらしから』

——とくに類人猿の社会生活——
東京都多摩動物公園園長 増井光子氏

今日は、動物たちの暮らしの中から、人間に振り返って考えられそうな事をお話しさせていただきます。動物たちには動物たちの考えがあり、私たちと同じには扱えないのですが、中には擬人的に考えてしまった方がわかりがいいことがないわけでは無いのです。特にゴリラやチンパンジー等

の行動からは、私たち人間の陰の部分がとてもよく見えてきます。去年の秋、モンキーセンターのチンパンジーがかぎを開けて脱走したという事件がありました。その時、チンパンジーがかぎを開けるのは可能かという問い合わせがあり、私は、「開けられますよ。皆さんは、動物の知恵をみくびっているのではな

いか。」と答えました。チンパンジーやゴリラは、動物園では人気者です。そして、彼らもまた私たちが観察しています。人間の気持ちを先取りしたり、いじわるしたりします。動物園の飼育係の希望者は多く、特に、ゴリラとチンパンジーの人氣が高いようです。でもこれらの係は、チンパンジーたちが決めるのです。チンパンジーの飼育係になりますと、最初の一年間は徹底的に試されます。

そして、この人に世話をしてもらおうということに合格するととてもよく言うことを聞いてくれます。チンパンジーは、傘などの道具を使うこともできますし、鏡に映る姿を自分だと理解できます。そして、人間と同じように、練習しないと泳ぐことができません。自分から進んでボスになるのではなく、日常の行動がまわりに認められ、ボスになってくれと言われてなるのです。

チンパンジーは、よく挨拶をかわします。その時、ボスのジョーは相手がこわがらないように、自分の指を相手の口の中に入れます。そうすると相手は、指をかみ切ろうとせず、おだやかな気持ちになります。

善悪の判断ができていないのではないかと考えられる行動をとることもあります。自分の子が悪いことをしてたたかれても母親は、だまって見ている。動物の母親は、相手がいくら強くても子どものために立ち向かっていくはずなのです。また、何かこわいこと

があると、年をとっても母親のところに助けを求めにやってくる。子どもの成長の過程で誰れか精神的な支えになってやる者がいないと伸び伸びとは育たないようです。気持ちが高ぶったとき、などは、仲間に手をにぎってもらおうとでなくさめられることもあり。子どものときに、集団から離れて生活し、思春期になってもどって来たとき、なかなか仲間にとけこめなくて困ったこともありました。

動物園内には敵がいないのでライオンの皮などを置いたところ、普通は緊張度の高い場面でも、複数で力を合わせてむかっています。抱き合ったり互いに励まし合ったりもします。

ボスとして、役目を果たすことも大変のようです。動物も精神的な病気にかかり、治療が大変むずかしいのです。年をとったチンパンジーたちが群れの中でどんな役割を負っていくのか、私の今後の課題と考えております。

県・白河大会

平一中PTA

佐藤 弓子

去る八月三十一日、九月一日の二日間にわたって開催されました第三十九回福島県PTA研究大会白河大会には県内二千

余名の参加のもと「二十一世紀をになう、心身ともにたくましく、個性豊かな子どもの育成をめざすPTA活動」をスローガンに掲げ六つの分科会と今年始めて開設された

開設された分科会にわかれ熱心に研究討議がなされました。

私の参加した特設分科会は進路指導で「家庭のあり方と親の役割を考え、学校との連携を深めよう」というテーマでした。子供達にとって、進路特に高校進学は重大な関心事であり、人生の最初の分岐点だと思えます。熱心な討論の中から家庭の中での話し合いから子供の将来の希望や抱負を育て、親は中学校三年において子供の進路について考えるのではなく、日

PTA研究大会に出席して

ごろから子供の将来の生き方や職業について考えていきたい。そして真の進路指導は、子供の将来を考えて、どこ的高校に行くかではなく、高校で何を学ぶかが大切であるという事が、認識させられました。

最後になりますが、大会初日、雨の中きびきびと働く裏方の役員の方々を見て力強い組織の姿を見た様に思います。本当に御苦労様でした。

東北・秋田大会

野田中PTA会長

国分 敏夫

第二十二回東北ブロック研究大会が、秋田市で開催されてより、はや一ヶ月半の月日が経過しました。しかし、私の脳裏には、第一分科会の、あのすさまじいまでの意見の応酬と、建前と本音がもろに出て、そこに現在のPTAの姿が、まざまざと浮き彫りされた状態が、つい数日前の出来事

のように甦ってきます。私等の参加した第一分科会は、組織・運営がテーマでした。そして型通りにスタートし、物憂いくらいに平坦と進行していったのですが、仙台市のある小学校のPTA会長より、分科会の在り来りの運営と提言に対し、痛烈な批判と、このような研究大会の本来あるべき態様の考え方が披露されてより、賛否両論が百出し形式にとらわれることなく、生き

全国・大阪大会

安積中PTA会長

栄 寿

第三十八回日本PTA全国研究大会大阪大会は水の都大阪の地で全国から一〇、〇〇〇人を超える会員参加のもとに八月二十四日、二十五日の両日開催された。

ときあたかも国際花と緑の万国博覧会が開催中であり、文字通り大会に花を添えるかの様な盛大な大会であった。

た意見の交換が行なわれ、それはと

りもなおさず分科会の盛り上がりとなり、会場は熱気と興奮と、心からの笑い感動に満ち、参加した人々は、互いに上気した笑顔を交し、満足の意を表しました。

このように、問題意識あるいは課題意識を持つ会員が一人でもいれば、その会は充実し、参加した一人ひとりが有意義な何物かを得ることが出来るのだと、その問題意識・課題意識の大切さを痛感させられた大会でした。

以上四項目をメインテーマとして設定し、特別部会を含め十一の分科会に於てそれぞれ熱心に研究討議された。

二日間の大会を通し、我々PTAは大会スローガン、及び四項目のメインテーマを全うする為に学習を継続しながら家庭、学校、地域社会の連携を生み出し、人権を尊重して世界に生きる日本人の育成を誓いあった。

大会事務局から

猛暑の中での大会なので、食中毒の防止、メイン会場の冷房、等々、実行委員会発足当初から課題が山積していたが、いざ開会してみると、さしたるトラブルもなく、恙なく閉会となりまして二年間の準備の苦労も、消え去ってしまいました。

これもひとえに、県本部事務局からの懇切丁寧なご指導ご助言、引き継いだ相馬大会の緻密な計画、各部各係の活動が明確に把握できる実施反省記録簿、更にご参加くださった方々のご協力の賜ものであり、改めて心か

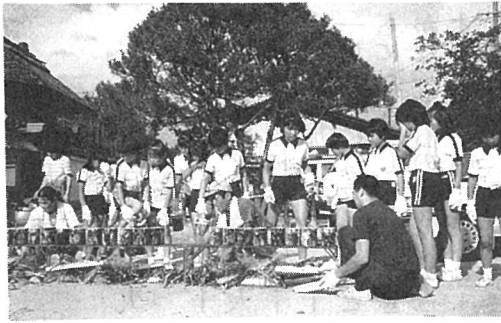
ら感謝申し上げます。元年度から準備委員会を組織し、各部各係の分掌事務内容まで決め、各単P、学校名で委嘱して二年度から直ちに活動できるよう、手筈を整えたつもりであったが、年度末の人事異動などで校長や会長に大幅な入れ替えがあり、且つ後任者との引き継ぎがスムーズにいかなかったため、実際に活動を始めたのは、六月に入ってからでした。

四月から臨時職員を入れましたが、献身的な働きで、大変助かりました。終りにりましたが、次年度開催の若松大会のご盛会を祈念し、皆様方に感謝申し上げます。総括いたします。



《伊達》 心豊かであらう 児童育成のための多彩な活動

梁川町立富野小学校PTA



(八幡神社でのキャンプ)

本校は宮城県に隣接する梁川町の北部に位置しNHK大河ドラマにも登場した伊達正宗、初陣祈願の八幡神社を学区に有する。また実り豊かな田園の広がる、歴史と自然に恵まれた学校である。

全校生一八六名、会員数一二五名の小規模校であるが、教育に対する熱意と期待は高く、昭和22年創設の本PTAの活動も、地域あげての厚い支援のもと熱心に多彩に行

われている。

▼地域ぐるみの安全指導
危険箇所安全点検や校外補導とともに、昭和48年より交通安全現場指導が行われている。本校前の県道は、碎石運搬のダンプトラック等、朝の登校時間帯の交通量は二百台以上にのぼる。そのため、毎朝会員の輪番制による現場立哨指導を他の関係団体の協力を得て実施している。交通事故の絶無はこの活動の大きな成果であるが、指導の方々とのおいさつ運動を通して、豊かな心の醸成が図られていることも大きな成果である。なお昭和44年には交通安全文部大臣表彰を受けている。

▼PTA巡回文庫。昭和49年より、会員の教養を高めるため図書を購入し地区毎に配本し、各家庭を巡回することにより読書の機会の増加に寄与している。親が読書することにより児童の読書熱も

高まっている。
▼子ども会育成会キャンプ。昭和53年より、たくましい心と身体を育成するため、会員の献身的な協力を得て、夏季休業中に一泊二日のキャンプを行い、児童の豊かな経験の拡大に寄与している。

▼ふるさと教室。祖父母授業参観と同時に実施され、地域の経験豊かな方々との交流は、故郷のよさを知ると共に、地域の人々との豊かな心のふれあいの場ともなっている。

▼この他にも親子奉仕作業、方部懇談会、両親学級、会報発行、自転車点検等の創意に満ちた多彩な活動が展開されている。

今後さらに、改善された近代的な校舎にふさわしく、意を新たにしてい、心豊かであらう児童の育成とPTA活動の充実発展に努めていきたい。

特色あるPTA活動

《安達》

夏休みの思い出

「親子レクリエーション」

二本松市立平石小学校PTA

我がPTA活動においてここ数年間特に力を入れてきたのは、「親子の触れ合い」を深め、「親子の心の交流」を密にすることをねらいとして、親子が一緒に作業したり、作ったり、楽しんだりするところの事業を計画し、推進することである。今年度計画したものとしましては、親子奉仕作業・親子廃品回収・親子収穫感謝祭・親子子ども会・親子ふれ合い教室・親子レクリエーションなどがある。

この中でも画期的なのは、「親子レクリエーション」の内容が年々充実し、親子の間で夏休みの一大行事として定着してきたことである。



(親子そろって楽しい夕食) 焼きそば・鉄板焼き・バーベキュー等々、子供会ごとにメニューはさまざま。食欲をそそるにおいが、校庭にたちこめます。

一堂に会して行うところの「親子レクリエーション」に切りかえた訳である。

ここに、今年度実施した「親子レクリエーション」の概要を印し、活動紹介にかえたいと思う。

一、実施日時
八月十八日午後一時三十分～八月十九日午前十時まで。

二、実施内容
△第一日▽開会式・水上運動会・夕食作りと会食・キャンプファイヤー及び子供会出し物大会・手作り灯籠大会・花火大会(打ち上げ花火も含む)

花火大会終了後、一年生～三年生は親と一緒に帰宅。

四年生は体育館、五・六年生は校庭にキャンプ用テントを張り夜営

△第二日▽ラジオ体操・朝食作りと会食・後かたづけ・奉仕作業・閉会式(灯籠大会の表彰を含む)

三、会費。一年～三年は六百円。四～六年は八百円。夕食代は一人五百円以内(子供会単位で献立決定)

《西白河》

「地域の人々と手を携えながら 子供の健全育成を計るPTA」

白河市立小田川小学校PTA

わが小田川小学校は、白河市の北東部の旧奥州街道沿いに位置し、緑豊かな自然環境に恵まれた学校で、一昨年、校舎改築落成、昨年、学校創立百周年記念事業を行い、PTA活動も活発にすすめられてきました。

本校PTAの特色は、PTAと地域の人々との密接な連携のもとに活動しているところにあると思います。新装成った学校であり、学校教育の環



境整備に対し、物心両面から支援する地域の組織として、「小田川小学校環境整備推進協議会」があり、自治連合会長さんを中心として、PTAが実質的な活動を行っています。この組織とPTAが共に力を合わせた協力体制を敷いています。両組織によって行われる奉仕作業は、児童のいない家庭を含めた地域住民全員の参加によって、校舎敷地の清掃・環境緑化の樹木植え、学校裏山の下刈りなど行い、教育環境の整備充実と子どもたちの心身の鍛錬・遊び場の確保に努めています。また、PTA主体の活動に、各自治会・消防団・交通安全協会・婦人会の協力を得ております。

楽しい夜のひと時を過ごします。その他に、廃品回収・ひな祭りもちつき大会・地域内交通安全鼓笛パレード・交通安全指導など、いつも地域のの方々の陰に陽にの協力で大きな成果をあげています。昨年の校舎改築落成並びに学校創立百周年記念事業は、地域とPTAの見事な連携プレーで成功し、共に祝うことができました。また、交通事故無事故二千日達成により、白河市教育委員会より表彰され、更に次の記録に挑戦しています。現在、子どもたちの指導上の問題もなく健全に成長しています。これから全て、地域の人々が常に学校教育に目を向け暖かく見守っているからだと思います。これからのPTAを中心によき伝統が築かれていくと思

特色あるPTA活動

歴史の生きづく会津の地、鶴ヶ城の西南、新校舎成って八年、生徒数七六五、会員六八三、文武両道の調和がとれた生徒づくりを伝統・校風としておるため、生徒達は勿論、PTAの諸活動にも精力的に活動を展開している。本PTAには、「親が燃えれば、子も燃える」を合言葉に各専門委員会が、それぞれ年間計画に基づいて活動している。▼文教委員会 昨年に続きコーラス部を開設、OB会員の参加もあって練習にも一段と熱が入り、十月の文化祭での発表が期待される。また、社教指導委員を講師に、郷土の史跡をこの目で学ぼうと、実のある研

《若松》

親も燃え、 子も燃えるPTA活動

県連P・東北連Pのダブル受賞
会津若松市立第四中学校PTA

修活動が行われ、常に会員の教養向上と親睦に努めている。

▼厚生委員会 ○自然探勝会、○社交ダンス教室
○校内文化祭協力、○スキー教室協力と、実のある内容でがんばっている。特にダンス教室では、美容と健康をかねてと、多数の若い先生も参加して



(植え付けに汗を流す)

軽快なステップに夜のふけるのも忘れる程の熱の入れようである。

▼補導委員会 祭礼補導は勿論、今年度は学区内の危険箇所のマップ作りと非行防止に、小中学校PTAが協力し合い健全な町づくりへ意欲的な取り組みをしている。

▼施設委員会 前庭の除草、花植え付け、立木の手入れ、アメシロ消毒など積極的に活動、花壇コンクール三年連続入賞の土台づくりに意欲を燃やし、緑化環境整備に生徒と共に汗を流している。

▼広報委員会 年三回の広報「希望」の編集・発行に意欲的に取り組み、土曜日の午後には、いつも編集委員の顔が会議室にみられ、学校と家庭を結ぶ重要な役割りを果たしている。

ともかく「私達は父親の働く後姿を見て尊敬のまなざしで、人格的な事柄を学んだ覚えがあるように、本年は父親が参加するPTAにむけて取り組みたい」と話す会長の言葉に燃える意気込みが感じられ、着実に前進している。

《北会津》

参加意識を高める

PTA活動

磐梯第一小学校父母と教師の会

本校は、美しい自然に豊かな清水と肥沃な土壌を有する表磐梯の裾野に平安初期、徳一大師によって建てられた「恵日寺」を中心として栄えた歴史の古い磐梯町の中央に位置し、創立は明治六年、現在の校舎は昭和六十三年に新築したばかりの三階建のレンガ造りで、オープンスペースの大変明るい学校です。児童数二四三、会員数一六九、学校と家庭と地域社会が連携し、会員相互の教養を



(親と子のふれ合いタイム)

地区懇談会の開催と危険箇所点検及標示板設置、盆踊りや初市の補導。
 ▼総務委員会 PTAのすべてを載せた手帳の発行、会報と速報の発行、活動アルバム、資料の整理、親睦会の開催。
 主に常任委員会の内容を伝える「速報」の発行は、会議の内容が即座に全会員に周知できる。又、昨年某新聞に当校の会報が紹介されたが、数年前までは庶務の先生に頼りきりだったのを、自分達で作ってみようと取り組み、写真やカットの使い方、割り付けなどその年の特徴が表われる会報となっている。紙面に動きや遊びを取り入れ読み手を目から引きつける工夫をしている。

▼教養委員会 年六回の家庭教育学級の開催。両親学級は普段あまり顔を見せない父親を対象に日曜日に行い、親と子のふれ合いタイムを設け、料理と一緒に作ったりゲームをしたり、各学年で趣向をこらした内容にして参加率が非常に高い。祖父母学級は孫達と給食を共に食べ、なごやかな時を過ごすばかりでなく、昔と違った教育内容や環境を理解してもらおう大変良い機会となっている。
 ▼施設厚生委員会 春と秋の奉仕作業、球技大会とPTA運動会の開催、運動会は、原案作製、進行とすべてを行い、学年対抗で両親そろっての参加が多くなっている。
 ▼地区委員会 交通安全週間中の路上交通指導、

▼学年委員会 学年行事の実施、スキー教室の補助など各学年単位で参加する行事の中心的役割を担っている。

《両沼》

全会員の協力による

PTA活動の推進

柳津町立西山小学校PTA

本校は柳津町の南に位置し、美しい自然に恵まれた学校である。児童数六十三名、会員数が五十三名であり、人数こそ少ないが全員参加で活動に取り組んでいるという特色がある。

今年度は、児童の健全育成のために父母と教師が一体となり、全会員の協力によって運営することを基本方針としている。授業参観・懇談や広報活動の充実、会員相互の意見の交流を重点活動としており、その一端を紹介する。

特色あるPTA活動

い学年行事 親や子ども同士、親子とも相互理解をさらに深めることを目指し、各学年でそれぞれ創意工夫をこらして計画を立て実践している。

例えば、今年の六年は西山一周ドライブをしながらイワナつりをしたりバーベキューをしたりして楽しんだ。

▼地域に親しむ「親子ふれ合いレクリエーション」 地域の自然のよさを味わい、親子のふれ合いを目的にしたレクリエーションを昨年から開いている。今年、学区内にある沼まで親子が手をつないでハイキングし、その沼でナマズつりをしたり水切りなどのゲームをしたりして楽しんだ。手作りのレクリエーションが好評であった。

「ひとりごと」を書き、各地区毎にノートを巡回し、自由な発想の下に「ひとりごと」を書き、お互いに読み合っている。子どもものしつけや家庭のあり方についての悩みや喜び、子どもの成長の喜び等が書いてある。

▼親同士もふれ合う楽し



(PTA学年行事)

▼充実した内容の両親学級の活動は、父母がそろっての参観や懇談、冬囲い等の奉仕活動、子ども

これらの活動は、研修部や児童部、施設部を中心に企画・運営をしている。PTA活動は児童の健全育成にあることを再認識し、活動のための活動とならないように留意しながら、目的な活動に心がけている。

《南会津》

子どもとふれあう

PTA活動の推進

田島町立田島小学校PTA

本校は、昭和二十一年五月の町大火により、翌年、現在の地に移り今日に至っている。校地は、山々に囲まれたすばらしい自然環境に恵まれている。

児童数が多い時期には千名を越したこともあるが現在は、校区変更により五百名で、南会津の中心校としての役割を果そうと、精力的な活動をしている。

本PTAの信条として

- 一、よく学び
- 二、みんなで力を合わせ
- 三、よい子を育てる
- の三つをあげ、子どもたちとのふれ合いを大切に諸活動が展開されている。

▼地区委員会は、給食費と諸会費の集金、長期休業中における子ども会活動の指導的役割を果している。

▼学年PTA委員会は、学年ごとに子どもとふれ合いを持つ行事を実施している。その中でも、学年対抗球技大会、親子スキー教室には、多数の父母が参加している。

▼環境構成委員会は、年二回の校地整備、緑化作業、ガラス磨、除草作業を実施している。

▼育成委員会は、七月十九日から三日間、祇園祭りと八月十四日から三日間、夜の補導を中学校のPTAと協力して、実施している。

(親子スキー教室)



▼教養委員会は、各種研

修会、郡PTA大会、研修旅行、映画会等の行事を持ち、PTA活動のリーダー的存在である。▼厚生委員会は、運動会とふれ合い活動(日曜日行事)への協力、学年対抗球技大会の企画運営にあたり、実施後のこん親会を運営している。

▼会報委員会は、年二回会報を発行しており、去る七月には、一〇五号を発行しました。主な内容としてはPTA活動の様子や学校行事、それに参加した児童の作文などがある。写真などが多く寄せられており大変好評である。

本PTAは、児童奨励費を多くとり、児童達を側面から援助している。そのため、音楽コンクール、ソフトボール、水泳、陸上大会等の成績は常に上位にある。

× × ×

特色あるPTA活動

《いわき》

「和合の精神」を

活動の柱にして

いわき市立小名浜第一小学校PTA

本校は小名浜地区の中心校で、いわき市の東南に位置し、太平洋に面した国際貿易港の町である。貨物船をはじめ大型タンカーで賑い、漁港としても昔から栄えてきた。商業・工業・漁業等活気に満ちあふれる。学校は緑に囲まれた高台で太平洋を眺望でき自然環境にめぐまれる中で児童は一人ひとりの個性を大切にのびのびと成長している。

本校PTAの誕生は昭和二十二年で、戦後の混乱の中で社会教育の重要性から出発、現在まで成人教育と児童の心身の健全育成を願って歩んできた。

昭和五十七年度にPTA優良団体として「地区



(親子のリレー競走 一年生)

史は古く現在まで百三十七号を発行、中でも手書き印刷による速報はお互に生きた声が聞けるので会員間で好評である。▼学年児童と親の集会活動を学年別に実施する。ゲーム大会を中心に、ボール運動など学年の特性を考え創意ある活動がみられる。親子年賀状版画教室のような学習会もあって、親子のふれ合いにととめている。

▼町をきれいにする清掃活動に参加、春夏に実施するクリーン作戦活動に児童・教師・PTA会員が学区内の道路・立体橋自転車置き場・公園等の清掃活動を学年別に分担して実施している。勤労体験を通じ郷土愛を培っている。

▼子どもを守る育成会対抗の球技大会を毎年夏休みに行っている。青少年健全育成推進のために、男はソフト、女はフットベースボール、余暇を利用しての練習から当日の大会と継続、すばらしい成果を上げている。

子どもと共に、子どものために活動するPTAとして実践の歩みを進めます。

平成2年度福島県PTA安全互助会加入状況 (2.10.31現在)

Table with 7 columns: 区分, 小中学校別, 加入人数, 加入率, 合計. Rows include 福島, 南達, 伊達, etc.

()は幼稚園数
○は養護学校・分校
(福島・相馬)・(石川・東白川・両沼・いわき)

県PTA安全互助会だより

福島県PTA安全互助会もおかげ様で順調に運営され、本年度も県内全校の九二%の加入率となり心から感謝しております。

十月三十一日現在の事故件数は一、三〇〇件を越え、そのうち十名もの生徒が傷害事故により死亡しており、まことにいたましい限りです。

給付額 八六、五八〇円
PTAの場合
例1 育成会キャンプの下見に行き転倒。左足関節捻挫 二〇日 通院 二〇日 給付額 四〇、〇〇〇円

例1 スポーツ少年団の野球練習中ボールをとりそこねる。右第四指骨不全骨折 二八日 通院 二八日 給付額 一四、五六〇円

例2 道路横断中、自動車に接触。左足部挫創、伸筋腱断裂 入院七三日、通院五七日 給付額 一六〇、〇〇〇円

平成三年度 福島県PTA安全互助会制度の改訂について

昭和六三年一月、当局より福島県PTA安全互助会の補償条件について「要改訂」の指摘を受け、契約保険会社と本会との話し合いにより、改訂までの間(平成元年度・二年度)実通院日数基準による補償にむけての経過措置を講じつつ平成三年度の切替えにあたり次の条件を考慮しつつ改訂作業をすすめて参りました。

3 会費 (PTA会費込み)

Table with 4 columns: コース, 学童1名, 学童2名, 学童3名. Rows A-1, A-2, B-1, B-2.

平成3年度 福島県PTA安全互助会制度

Table with 3 columns: Aコース, Bコース, 学童/父母・教師. Rows for 傷害, 賠償責任, 借用物.

※ B-1コースは、従前の1型とおなじ。
A・Bとも2コースは学童賠償保険を付加したものの。

なお、公費による会費補助を受けている学校におかれましては、自治体の予算策定期間中に担当者とご連絡くださるようお願いいたします。

また、各学校宛のお知らせは、三年一月末には発送できる予定です。

今年も災害事故防止の作品を募集する。多数の応募を期待している。
対象 福島県内小中学校
応募規定 募集要項参照(十一月配布)
※習字の課題がかわる。
応募締切 平成三年一月三十一日
提出先 福島県PTA連合会

編集後記

白河大会は残暑厳しい中での開催でしたが、大会事務局の綿密な計画と準備によって、とどこおりなく進められ、大きな成果を上げることができました。大会運営に敬意を表します。